第 11 回日本くすりと糖尿病学会学術集会
口頭発表

# 糖尿病関連注射薬による皮下硬結防止を目的に行う薬局薬剤師の患者指導とその効果

1)総合メディカル（株）学術情報部、2）そうごう薬局 天神中央店、
3)串戸店、4)朝倉一木店、5)たかお南店、6)三股仲町店、7)総合メディカル（株）
郡司　清志[1) 2)]、羽村　光[3)]、鶴川　千佐子[4)]、田上　順隆[5)]、福山　陽子[6)]、
中村　泰朗[2)]、橋口　知香[2)]、浅野　陽香[2)]、杉野　千尋[2)]、月原　健[7)]

【目的】保険薬局において、糖尿病関連注射薬が処方された患者の応対時に、医療機関で十分な初回指導を受けていない患者や、長年使用するうちに注射手技が自己流になっている患者を多く経験する。今回は、誤った手技により安全性・有効性が著しく低下することが知られている皮下硬結を防止することを目的に、患者に対し注射薬のサイトローテーション（以下、SR）の実施状況を調査した。さらに、薬剤師によるツールを用いた患者指導を実施し、その効果を検証することとした。

【方法】2022 年 6 月～8 月に、そうごう薬局 24 店舗に来局された成人患者のうち、糖尿病関連注射薬使用患者 154 名を対象とした。調査項目は、SR の実施状況・皮下硬結の有無・年齢・性別・注射使用年数・使用注射製剤・HbA1c 値とし、聴き取りにて得られたデータより、適切な SR 実施の有無と皮下硬結の有無における傾向を分析した。さらに、 調査した当日に指導ツールを用いて「硬結防止に関する患者指導」を行い、6 か月後に 再度適切な SR の実施状況を確認した。

【結果】調査の結果、150 名中 97 名（64.7%）の患者は適切な SR が出来ておらず、改めて患者指導が必要であった。また硬結の発生状況は、使用年数が長く、注射回数が多いほど硬結を経験しており、先行研究と同様の傾向であった。指導から 6 か月後の SR 状況について 150 名のうち 84 名確認が出来、SR が適切に出来ていない患者は 84 名中 24 名（28.6%）と大幅に改善しており、薬剤師の指導は効果が高いことが明らかとなった。

【考察】今回、多くの患者が適切な SR の手技が出来ておらず、改めて指導が必要である実態を明らかにすることができた。特に使用年数が長い患者や使用頻度が多い患者については、保険薬局薬剤師が定期的にフォローアップをしていく事が、皮下硬結を防止するために有効であると考察した。また、ツールを用いた指導は効果が高く、 患者の手技の定着に寄与出来ることも示唆された。